

投信総合検索システム開発要綱の概要

1. 投信総合検索システム開発の目的

交付目論見書ファイルや基準価額データ等を集約し、ファンドの商品分類、基準価額等、複数の項目を検索しその抽出結果をわかりやすく表示、比較することを可能とし、投資者の主体的な投資判断に資する情報の提供を目的とする。

2. 投信総合検索システム開発の基本方針

会員会社の交付目論見書を集約し、当該交付目論見書の検索・閲覧が可能な機能（交付目論見書検索機能）及び基準価額等のデータを集約し、当該基準価額等のデータを検索・閲覧する機能（基準価額等検索機能）を有するデータベースを構築する。

3. 投信総合検索システム開発の具体的方向性

(1) 交付目論見書検索機能について

- ・ 会員会社が発行する交付目論見書の PDF ファイルを一元的に集約、蓄積、抽出できるデータベースを新規に構築する。

(2) 基準価額検索機能

- ・ 現行の基準価額検索のページについて、検索機能を強化する等抜本的な見直しを行う。
- ・ 検索結果については、ファンドの純資産総額、基準価額、分配金の推移等、投資者の投資判断に資する情報についてグラフや表等を用いて比較する等、わかりやすく表示する。

(3) 検索項目及び検索結果の表示について

A. 目論見書及び基準価額等の検索にあたっての検索項目の概要は以下の通り（画面イメージ1を参照）。投資は以下の①～⑩のうちから必要な項目を入力したりチェックボックスをチェックしたりすること等によってファンドを絞り込み、その結果について一覧表示する。

- ① ファンド名称／愛称
- ② 運用会社名
- ③ 商品の区分（単位型・追加型、協会分類に基づく商品分類等）
- ④ 基準価額

- ⑤ 純資産総額
- ⑥ 分配金の額
- ⑦ 設定年月日
- ⑧ 償還日
- ⑨ 決算頻度
- ⑩ 信託報酬や手数料等

B. 検索項目は基本的に上記の①～⑩について表示される。まずは検索結果は一覧の形で表示される。基準価額や信託報酬等についてはその段階で比較可能なように一覧表の中で表示される（画面イメージ2を参照）。一覧表には当該ファンドの目論見書 PDF ファイルへのリンクも含まれ、この一覧表示から目論見書のファイルの閲覧も可能である。当該ファンドの基準価額や純資産の推移等、ヒストリカルな推移を含むその詳細結果については、さらにそこから投資家が当該ファンドを選択することで表示される（画面イメージ3を参照）。また詳細結果を複数同時に表示させることでファンドの比較を容易にする。

- ① 基準価額の推移については折れ線グラフ、純資産総額については面グラフで表示、グラフの表示スパンについては過去3カ月、6カ月、1年、3年、5年のように選択して表示することも可能とする。
- ② 分配金の額については直近数回分を一覧表の形で表示。
- ③ そのほか、投資家が選択した投資信託のリターン計算等を可能とする。